

棚田オーナーに参加して

東京農業大学助手

松田恭子

東京農業大学で農産物流通や経営について勉強している松田です。昨年「Jネット会員による楽しい農業体験」に飛び入り参加させていただいた縁で、今年は棚田オーナーに挑戦しました。

上越市の棚田オーナー制度は一アール(二〇〇坪)当たり年間会費三万円。最低年三回作業(田植え・草取り・稲刈り)をすることが条件となっています。それ以外の苗作り、田おこし、代掻き、脱穀・精米は自由参加です。運営主体はNPO法人 かみえち山里ファン倶楽部ですが、作業当日は農林水産課の方々も応援に駆けつけ、イベントを盛り立てて下さっています。

五月中旬、小雨の中、田おこしがありました。用事のために作業に行くと、そこにはフレッシュな牛糞がーそれをスコップで田に運んでいき、土とよく混ぜ

ます。フレッシュな牛糞は意外に臭くなくったのですが、土と牛糞を混ぜるのが重労働でした。スコップでまくにも重くて、こんなに堆肥が固まって入ってしまつて大丈夫なんでしょうかと、自分の作業ぶりに大きな不安が。

その一週間後、田植えがありました。昔ながらの三角柱状の道具で田んぼの表面に目印の筋をつけた後、苗の束から三四本をほくしてキュッと田の目印に等間隔に差し込みます。田んぼの中で慣れない長靴を履き、苗の束も背負わないで手に持てるだけ持つて無くなると畦に一々取りに行くという要領の悪さ(私だけでした)。それでも田植えは何故か楽しく、稲刈りよりも楽しかった位です。泥遊びは良い気分転換になるのかも知れないですね。NPOの活動拠点である菅葺きの「ゆつたりの家」で、笹に包まれたおむす



びと汁物をい
ただきまし
た。腹に沁み
る美味しさで
すね。
草取りは体

調を崩しドタキャンしてしまいました。九月末の稲刈りは暑くもなく寒くもなく気持ちの良い天候でした。去年より作業量は多かつたような気はしますが、無事終了しました。ただし、稲を藁で束ねるのが難しい。これはつまりはなかなか上手にならないようです。

この原稿を書いているのはもう十一月。今日は梅干のおむすびを作つてお台場に行つて外で食べました。おむすびを噛みしめると茶碗で食べるより一層美味しくいただけました。

一年を通して、他のオーナーの方とも顔見知りになり、楽しくお話を伺いしました。また、蚕をわけていただき、そこから新しい興味がどんどん湧いてきました。「全国の天気」で明日の天気を見るところが一つ増えました。この感覚がオーナー制度の楽しさなのでしょうね。

また来年、機会がありましたら参加させていただけると幸いです。来年は、他のオーナーや地元の方々より一層交流を深めることができたいと思います。また、合併後は、安塚町、大島村、吉川町

など、既に棚田オーナー制度に取り組まれている町村も上越市となります。安塚町は米の雪中保存をし、大島村では口コミでオーナーを募集し、吉川町では共同作業なので一人でも参加可能としているなど、どれも個性的な取り組みをしているようです。周辺の新井市、松代町、松之山町でも取り組みが進んでいるようです。それぞれの個性を活かしながら広域的にも交流が深められるような一層楽しい取り組みを楽しみにしています。どうぞ今後よろしくお願ひ申し上げます。

